資料２

まちづくりシンポジウム記録

開催日：　平成 24 年６月９日（土）　開場：午後１時 00 分
【第一部】　午後１時 30 分から午後２時 20 分
【第二部】　午後２時 30 分から午後４時 00 分
会　場：　西東京市民会館（西東京市田無町 4-15-11）公会堂
主　催：　西東京市
参加者：　190 名（うち無作為抽出での案内による参加者 20 名）
プログラム：

＜第一部＞

●開会挨拶　　坂口 光治　西東京市長

●基調講演

「21 世紀に求められる政策とは何か」～市民参加と協働の重要性～

（講師）西東京市総合計画策定審議会　会長　和田 清美　氏

（首都大学東京 都市教養学部 都市政策コース 教授）

＜第二部＞

●西東京グッドニュース

海老澤 達也　氏（西東京青年会議所 理事長）

望月 利將　氏（社会福祉法人 西東京市社会福祉協議会 事務局長）

池田 干城　氏（西原自然公園を育成する会 会長）

渡辺 美恵　氏（特定非営利活動法人 生活企画ジェフリー 理事長）

●まちづくりゆめトーク

（司会）坂口 利彦　氏（西東京市総合計画策定審議会 副会長）

（パネリスト）

和田 清美　氏（基調講演講師）

小西 和信　氏（西東京市総合計画策定審議会 副会長）

海老澤 達也　氏（西東京グッドニュース発表者）

望月 利將　氏（西東京グッドニュース発表者）

池田 干城　氏（西東京グッドニュース発表者）

渡辺 美恵　氏（西東京グッドニュース発表者）

●会場との意見交換

●閉会挨拶

●開会挨拶　　坂口 光治　西東京市長

ただ今ご紹介いただきました、市長の坂口光治でございます。

西東京市は、昨年１月で誕生 10 周年を迎えました。この間は、21 世紀の新たな都市像を目指し、平成 16 年３月に本市で最初の総合計画を策定し、都市計画道路の整備や駅前再開発、公園や学校、子育て・福祉関連施設の整備など、多くの分野で新たなまちづくりを進めてまいりました。

現在の計画の期間は平成 25 年度までとなっておりますことから、平成 26 年度からの新たな総合計画の策定に向けて、先般、西東京市総合計画策定審議会から計画の構成、計画期間、検討体制などの基本的な考え方を取りまとめていただきました『総合計画策定のための基本方針』について答申をいただいたところでございます。

社会経済情勢は依然として厳しく、健全な財政運営を維持しながらも、多様な市民ニーズへの対応が求められております。また、昨年は東日本大震災により甚大な被害があり、市内でも構造物の損傷等、被害が生じました。国を挙げて復旧復興に取り組んでいく必要があるとともに、震災の教訓から、「地域の絆」や「安全・安心」といったことが、改めて重要視されています。

そのため、新たな総合計画の策定にあたりましては、長期的なビジョンを持って、一人ひとりが「まちづくり」に関心を寄せていただくとともに、市民の皆さまの思いや期待をお聞きし、また、自らまちづくりへの参加について語り合う場を設けたい、そのような趣旨で、本日のシンポジウムを開催させていただきました。

今後は、７月から８月にかけて、「まちづくり市民ワークショップ」、「子どもワークショップ」の実施も予定しております。これらの機会をとおして、いただいた皆さまの思いやご意見を十分尊重し、本年度末に予定しております中間のまとめに向けまして、総合計画策定審議会を中心に、策定作業を進めてまいりたいと考えております。

結びになりますが、本日ご来場の皆様、並びに基調講演をお願いしております和田清美先生をはじめ、運営にご協力をいただいております総合計画策定審議会の皆様、第二部で発表をいただく団体の皆様に厚く御礼を申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

＜第一部＞

●基調講演「21 世紀に求められる政策とは何か」～市民参加と協働の重要性～

（講師）和田 清美　氏（首都大学東京 都市教養学部 都市政策コース 教授）

ただ今、ご紹介にあずかりました和田清美と申します。首都大学東京で教授職を務めております。

先ほどご紹介の中にあったように、今回、新たな総合計画を策定する、その審議会の会長をしております。市長のお話の中にありましたように、この３月末には、基本的な考え方といいますか、総合計画策定のための基本方針を審議会で取りまとめて答申をし、皆さまにも既に公開されているかと思います。今日は 45 分でございますが、続いて予定されております西東京グッドニュース及びまちづくりゆめトークのシンポジウムに先立って、今日のタイトルでございます『21 世紀に求められる政策とは何か』ということで、お話をさせていただきたいと思っております。

今日の話はお手元の資料のとおりでございますので、これに沿って進めさせていただけたらと思っております。『21 世紀に求められる政策とは何か』というテーマでお話をさせていただくには、まず今の時代、21 世紀という大枠でございますが、それをどのように捉えていくのか。そして、私たちが進めております、今後市民の皆さんに参加していただくこの総合計画の策定に向けて、どういう時代認識があるのかということからお話をさせていただきたいと思っております。

ご承知のとおり、21 世紀も一つの節目の 10 年を超えて、2010 年代に入っております。20 世紀から 21 世紀の転換期の中で、いろいろな議論がなされていったわけですが、考えてみますと、21 世紀の社会は、当然でありますが、20 世紀の継続性の上に現在があるということですが、西東京市、東京に限らず日本社会全体は、今、日々大変な変動の中に、私たちは立たされています。振り返ってみますと、今のこの日本の社会の原形は、第二次世界大戦後の高度経済成長と、そしてこれまた都市ということを考えていくときは、大きい変化がありましたが、変動として急激な都市化というものを経て来ているわけです。

西東京市の歴史を紐解けば、第二次世界大戦後の急激な人口増加が現在の西東京市を作ってきたわけですが、このような大きな変動の中で、およそ半世紀を経て現在に至っているということです。そのような変化を、私は社会学が専門ですが、このような都市化の急速な展開というものを経て、1970 年代、更にそれが色濃く出てくるのが 1980 年代において、いわゆる都市型社会というような社会の到来ということが言われてきておりました。それは 60 年

代、まさに高度経済成長期と重なる都市化の極めて流動的な社会を経て、まさに都市型の社会へと変化をしてきて、そのような社会へ入って、それが今申し上げたような 1980 年代ぐらいからそういった社会のあり方、つまりこれは単に都市に人口が集中してくるということだけではなくて、我々のライフスタイルも都市型の生活様式に変わってきているということがいえるわけです。そのような都市型社会に移行してきている現状の中で、さらに超高齢化社会と重なる時代に入ってきているということでございます。

西東京市においても、人口の動きを見てみれば、合併後で見れば、現在平成 23 年度で約 19 万 8,000 人、約 20 万人です。これは高齢化という点でいえば、20.5%ですから約５分の１が 65 歳以上の人口だということが現段階ではいえるわけです。これが平成 27 年の予測によると、これをピークにしながら減少期に入っていく。若干それ以降停滞期があるようですが、日本社会全体の傾向と同じように人口減少社会が到来し、そのような中で、さらにまた高齢化が進行していくことになっていくわけです。

このような社会のあり方、構造的な変化を都市という視点から社会を見ていくと、こういう都市成熟型の時代へと、今われわれはその中で生きているということがいえると思います。そのような都市成熟化時代は、よく指摘されていることでもありますが、片面で 1960 年代、高度経済成長期の右肩上がりの成長する社会とは逆の衰退化の面をとても持っているという、こういうことが先ほど申し上げました 1980 年代以降いわれてきたわけです。これは日本だけではなくて、欧米の先進国も同じようにいえて、成熟化ではなくて、むしろ衰退化の要素をすごく持っている。それ故にこそ、どう衰退化を回避しながら、文字どおりの成熟化した社会にしていくか。その場合、政策的な対応というものが必要になってくる。そういう意味では、80 年代以降から、そういった取り組みが着手されて、それが必ずしもうまくいっているかは別にいたしましても、そういう取り組みがされていました。

ところが、日本の場合には、都市型社会に入っていく 1980 年代の中期には、皆さんもご承知かと思いますが、バブル経済で、特に東京は大変な再開発にも揺れましたし、それに伴って地価の上昇等々が起こり、そういう意味では、欧米が 1980 年代に着手していた衰退化を食い止める、まさに成熟化社会を実現するようなさまざまな政策的な対応ということを、80 年代には着手されてこなかったという面が、つまり、60 年代的な右肩上がりの成長の流れが続いている、このような認識があって、その点の着手が遅れていました。

ようやく 90 年代に入って、バブルがはじけ、そして阪神淡路大震災を経験する中で、わが国が迎えているさまざまな不安定要因、ここでいいますと先ほど申し上げた人口減少社会、さらに少子高齢化社会、さらには大変な財政破たんというような不安定要因が、この 90 年代の中期になって大変可視的に取り組まざるを得ないような、そういう事態に遭遇していく中で、本格的に政策、特に都市政策の分野においても、こういった状況認識の中で、衰退を食い止める、あるいは文字どおりの成熟化した社会をどう構築していくのかということがようやく認識されてくる。これが 90 年代後半ぐらいから、国も、そして地方自治体も、そういう取り組みに価値が置かれていくようになっていきます。

そこでポイントとなるのは、そういった成熟型社会をどのように捉えていくかというときに、やはり生活の場である地域社会の、この場の中でこういった問題を取り組むということになっていくわけです。具体的には、これがまちづくりの課題ということで書かれておりま

すが、人口減少であるとか、少子高齢化というような問題、こういうものを内部に抱えながら、なおかつ外部的な要因、経済の低迷であるとかグローバル化の進行の中で、一国だけではもはや立ち行かない現状にあるわけですが、それに環境問題などとか、自然災害であるとか、まさにリスクはたくさん増してきている、そういう現代社会になってきているということです。

ですから、いかに地域のレベルで成熟化、衰退化ではない成熟化した社会を構築していくかというところに、今の都市成熟化時代の中にあっては、そこが大きな課題として浮かび上がってくるということでございます。そのような中で、私たち市民も、政策に直接関わっている行政、国も地方自治体の職員も含めてですが、どのような政策が今後求められてくるのか、或いは求める必要があるのかということが、次の問題であります。

先ほど申し上げましたとおり、都市成熟化時代にあっては、高度成長期は人口も構造化をし、そして経済的にも成長段階にあるという、社会全体がここあるような成長拡大という状況にありました。そこでは都市化とも絡んでいるわけですが、都市開発或いは経済開発、そういう意味では開発ということが政策の基調にあったわけであります。この拡大・開発基調というものが、欧米では、先ほど申し上げましたように、80 年代或いはもう少しいくと 70 年代後半ぐらいから、社会が様々な問題を抱えている中で、その段階から衰退化を食い止めるような各種の政策を取られていたわけですが、日本はちょっと遅れて、先ほど申し上げたような 90 年代になってようやくそういう認識が強まってきて、着手されるようになりました。

しかしながら、まだまだ各種の政策を見ていても、拡大開発基調という政策の下にある時代認識、発想そのものから脱却しないまま 21 世紀を迎えたということだと私は思っております。わが国の社会或いは戦後の国土形成を担ってきた全国総合開発計画は第５次をもって終わっていくわけですが、21 世紀に入って、もはや開発ではなくどう国土を形成していくのかという形成計画というものにそれがスイッチされていくわけです。そこでの基調というのは、どう成熟した社会を日本において実現していくのか、それが国土形成のレベルでどのような政策手当が必要なのかということで、そこでの認識が成熟ということに置かれているわけです。

そういう中で、ようやく 90 年代を経て 2000 年代に入った段階で、実質的な高度成長期の拡大開発基調という政策を形成していく、或いは立案していく発想そのものが大きな転換を迫られて、現代からまったくそのように転換をしているかということは大変検討の余地がありますが、今の社会が人口減少の段階に入り、そしてその人口減少の状況の中で、高齢化が進んでいくという、このような人口構造の変化に見合った、縮小していく、成長ではない縮小した段階、さらにはより豊かな成熟した社会のあり方というものを政策の基本的な発想に転換していく必要があります。こういう認識を強めていく必要があるということで、私どもの研究グループなどは、ネーミングがちょっといいかというのがございますが、高度成長期の日本の基本的な開発の考え方から、逆に縮小・成熟、こういった基調への発想の転換というものを、自主的に発想を転換していく必要がある。そのような発想の転換の中で、先ほど申し上げたような今地域社会が抱えているさまざまな問題を解決するため、或いは少なくとも衰退化をこれ以上食い止めるような、そういう政策が講じられる必要があるということです。

考えてみますと、こういう発想というのは、高度成長期のただ中で、さまざまなゆがみが、都市問題といいますか、社会問題が提起されて派生していたわけです。それに対して住民市民の間から問題提起がされて、自主的な住民運動ということで、行政や企業に対してさまざまな要求や異議申し立てをした、そういう経験を私たちは持っているわけです。その時点でも、開発優先ではなくて、成長優先ではなくて、豊かな生活というものを基調に置いた、そういう政策のあり方というものを提起されていたことは、例えば地域主義の運動であるとか、地方のまちづくり運動であるとか、こういった問題提起がなされてきたという事実もございます。しかしながら、社会全体として、或いは政策の基調としては、先ほど申し上げたような、どうしても開発や成長に引きずられ、そしてそういう転換ができないまま現在に至っているということだと思っています。

そういう意味では、拡大開発基調の政策形成というのは、やはりまだまだそこに問題が生じていて、例えば、公害への対応であるとか、開発への環境問題への対応であるとか、あるいは子育てに関わるような対応であるとか、そこに現にある問題にどう対応していくか、それに追われていたのも、この高度成長期以降の拡大開発基調における政策形成の現状であったと思います。もちろんそこにある課題を同時に対応していかなければいけないわけですが、しかし、どういう社会を、或いはどういう暮らしを、そしてどのような生活設計を、或いは個人でいえば人生設計をどのように長期的なビジョンに立って構想し、そして具体的に構想した目標に向かってどのような手立てが可能であるのか。まさにビジョンを設定し、そしてそれを実現していくための政策が今こそ求められてきている、そういう段階に私たちは立ち至っているというか、そういう政策のあり方が求められているのだと思います。

政策や具体的な集大成であるところの今回のような総合計画に当たっても、やはりこれは私たち市民が、どのような社会を作ろうとするのか、或いは私たちが目指すべき社会、或いは生活は、特にこの地域の場で生活をしていく、そういう意味では、理想というものをどう描くか。個々の計画や政策は、その表れであると思っています。これは決して行政だけが一方的に作るものでもないし、むしろ皆さんそれぞれの個々の考えが、政策或いは計画に体系化されているということが政策の正しい捉え方だと思っていますし、そうであるということです。そうすると、如何に私たち市民それぞれが、責任を持って政策を形成するのかということになろうかと思うわけです。

そうすると、次に大きいテーマに入っていきますが、政策形成と今申し上げたような市民というものが、政策の単位、むしろ市民の総意が政策として単位化されるのだというように考えた場合、わが国においては、そのような手立てとして、市民参加、協働というものが、まさに高度成長期のさまざまな現実に起きた問題の解決に対して、市民の側から意向をくみ上げる動きが出てきて、行政もそういう仕組みを講じてきたということになってまいります。政策とは、と書いておりますが、先ほど申し上げたように、政策が私たち自らの今後の生活や社会のありようの未来図と考えるとすると、政策はここにあるような地域が抱える公共的問題の解決を目指して目標を設定し、その目標を達成するための手段を明らかにし、それを計画にすることと書いてありますが、要は先ほど申し上げたような、どういう未来を私たちは描き、どのような生活を構想するのかというところにかかってきて、そのためにどのような具体的な政策を作っていくのかということになるわけです。

取りも直さず政策というのは、やはり私たちの生活の質を高めていく手段であると思います。そういう意味では、これも学問的、行政学や政策の道具であるとかでいいますと、総体として私も一言で政策、政策といっていますが、皆さんが目に触れる具体的な個別の事業があり、そして個別の事業は施策というものに束ねられていて、その施策は、三角形の一番上にありますが、どのような社会がどのような生活を私たちはこの西東京市で築こうとしているのかということを置いた場合、では目標を達成するために、どのような施策や個別の具体的な事業が必要であるのか、こういったことが政策の体系であるし、同時にこれから私たちの総合計画策定審議会では、こういった点を議論していく、本格的な議論が今年度から始まるということでございます。

翻って考えてみますと、なぜ市民参加或いは協働というものが、このような仕組みとして作られてきたのか。これはこれまでの市民参加や協働の歴史的な展開を見ていきますと分かるのですが、その前に、市民参加の定義がここに書かれておりますが、政治行政過程の住民市民の直接的参加を指し、これによって直接的または間接的に何らかの影響を与えている。ポイントは、横にありますが、政策過程モデルというのが、これも政策の研究の領域では理論として証明されているものですが、政策形成、政策立案の段階、政策実施の段階、政策評価の段階、各段階において市民の直接的な参加もしくは協働がチャンネルとして制度化されてきているということです。それは、戦後の日本国憲法 92 条、地方自治の本旨において保障された団体自治と住民自治というものの住民自治は、代表民主制と直接民主制、これに基づいて、代表民主制については選挙によって委ねるということになりますが、直接民主制の方法としてこういう形で制度化されてきたということでございます。

私たちがこれから作業を進めようという今回の総合計画の策定に際しても、市民参加と協働は、大変重要視して、そういった基本的な考えに基づいてその作業に入っていくということで考えておりますし、そのように進んできております。それは日本全体からいっても、市民参加や協働というものは、まさにここでいう戦後の憲法の策定、さらには今申し上げた市民参加、直接参加という点でいえば、これは３つに分けているわけですが、導入期、浸透期、拡大期ということで書かれていますが、ぜひ後でご覧いただけたらと思います。

つまり、市民参加や協働というものが、1960 年以降をとってみても、この半世紀でいってみれば導入され、そしてそれが浸透し、現段階にあっては拡大し、西東京市においても市民参加条例が制定されておりますが、それをはじめとした市民参加や協働というものが定着し、さらには拡大化してきているような、そういう現状にあるわけです。ですから、これを私たちはより良い政策、長期計画を作っていく際には、市民参加と協働というものを導入し、市民の意向を反映したものとして取り組んでいきたいということでございます。

その結果、このようにまさに導入から始まって、浸透し、具体的にどのように発展してきたか、拡大してきたかということがここに書いてありますが、その結果として、市民参加、協働の方法が、一覧として掲げられておりますが、それぞれの施策過程、形成および実施、さらには評価の段階で、ここに代表的なものが方法として書いてありますが、まさに方法についても開発がされてきている、その現段階、到達点が今の一覧のチャートに含まれているものです。

ですから、このような成果の上に立って総合計画も作り、後でお話をいたしますが、ここ

で代表例として掲げられているような、例えばここでいうパブリックコメントであるとか、ワークショップであるとか、今日のシンポジウムもそうですが、いろいろな方法を使いながら、市民参加というものを積極的に取り入れていくということを、ここで申し述べておきたいと思います。

さらにまた、市民参加や協働という問題を考えていくときには、次の３つ目のテーマに入っていきたいと思いますが、参加と協働という問題とコミュニティの問題は切っても切り離せない展開をわが国ではたどってきております。そもそもコミュニティの問題提起がなされたのは、冒頭に申し上げたような急速な都市化の進行、当時は地方の農山村から大都市、とりわけ三大都市圏に人口が流入していく、そのような人口の移動を背景にしながら、これまでの日本における地域社会の枠組み、つまり地域社会は当然でありますが構造的には人がいて、人口がいて初めて社会は成り立っているわけですから、これが構造的に変動していったわけですから、今度は変動に伴う地域社会をどう構築していくかということが課題として、1960 年代に提起された。これがここにあるような答申として提起されたということです。

ここでの目的は、生活の場において、しかも新しい地域社会をどう構築していくのかということがこの答申の狙いでありましたし、同時にわが国の地域社会は、行政との関係でいえば、フィードバックの中間に、住民と行政体の真ん中にコミュニティと書かれてボックスが置かれていますが、ここにあるような住民間の討議が行われる場としてコミュニティというものが存在し、それでも合意形成というものを行政に伝える、こういうものも同時に、ここでいう行政におけるフィードバック回路みたいなことで、この答申には盛り込まれております。

従って、参加と協働、コミュニティへの参加というものが強調されておりましたし、それが当時いわれた行政の住民参加というものと重なり合いながら、コミュニティ政策は地域社会への構築、すなわちどうコミュニティに住民参加をしていくか、さらには行政のコミュニティを媒体として、なおかつ直接的な参加ももちろんですが、行政との関係ということでいえば、こういったものは必要と提言され、以降、コミュニティ政策というものは、70 年代、80 年代、幾つか特徴がありますが展開をし、90 年代には NPO 法ができたことによって、市民活動とのパートナーシップということも大変強調されておりますし、2000 年代に入っても、常にパートナーシップ、協働という問題は、大変クローズアップをされてきているというものです。

ちょっと見にくいのですが、最近のコミュニティ政策の提起ということで、図をここに掲げております。後で詳しく見ていただきたいと思いますが、昨年の東日本大震災によって、地域における絆であるとか、社会関係であるとか、こういったことの重要性が指摘されていったまさにこの１年、そういう意味ではコミュニティの重要性や絆の重要性が指摘されてきているところでございますが、政策としてもこういう形でコミュニティ政策が、70 年代問題提起されて以来、活発に政策の動きとしても出てきているのが現状です。そういう意味では、地域の現場で様々な諸団体があり、そういう諸団体をどう協働させ、市民間、団体間の協働と、それから行政と共にパートナーシップを組みながら、政策等を介し、それは単に形成の立案だけではなくて、実施も含めた段階に、市民協働や市民参加というものが、コミュニティの中心的な課題にもなってきているということの一つの示したものでございます。

最後になりますが、西東京市総合計画、平成26年からのものを、今年度本格的に策定作業に入ってまいります。こういった総合計画の策定に際しては、私どもの審議会委員においても、市民参加と協働を積極的に進めることを基本としております。その場合、先ほどの方法の現段階における到達点を紹介いたしましたが、そういうものの成果の上に立って、しかも西東京市は市民参加条例を持っておりますので、これを基本にしながら、今回も市民意識調査、そして企業団体ヒアリングを既に進めております。そして、パブリックコメント、これも当然でございます。そして、今回のまちづくりシンポジウム、さらには市民ワークショップ、お手元の今日の資料の中にも市民ワークショップのご案内がございますが、これも私たち審議会のメンバーと皆さんと一緒にワークショップを進めていきたいと思っております。ぜひご参加いただけたらと思っております。その他にも、子どもワークショップなど多様な住民の方々から、それぞれの立場からご意見を集約して、さらには参加と協働に基づく総合計画の策定を進めていきたいと思います。

今回の総合計画に際しては、これまでと同様に、今申し上げたことで従来の方法を使ってまいりますが、新たな参加手法として、無作為抽出で選ばれた市民の参加を目指した方法、近年市民の皆さんも新聞等々で大変取り上げられておりますので、こういった新たな手法も取り入れながら、どういう未来図、目標を設定し、どのような豊かな生活を、この西東京市でできるのかということのための具体的な政策、施策というものを、今後、市民の皆さんと共に策定を進めていきたいということでございます。

お時間になっておりますので、最後に今日はこの雨の中、皆さん駆け付けてくださいまして、お礼を申し上げるとともに、今後のワークショップをはじめとした市民参加や協働のこういったものに、ぜひご参加いただきたい、そのことをお願いして、講演を終わらせていただきます。以上でございます。

＜第二部＞

●西東京グッドニュース

■西東京青年会議所 理事長　　海老澤 達也　氏

皆さん、こんにちは。私は、西東京青年会議所の理事長を務めております海老澤達也と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、このまちで生まれ育ち、現在も市内の保育園にて勤めております。そして、その仕事の傍ら、西東京青年会議所の理事長を務めております。青年会議所とは、20 歳から 40 歳までのこのまちの青年が、明るい豊かな社会の実現という目的をもって活動している団体です。1 年ごとに新しい組織へと生まれ変わる単年度制となっておりますので、私は、今年度、2012 年度 1 年間の理事長ということになっております。青年会議所は、もともとは 1944 年アメリカのセントルイスで設立されました。そして、現在世界各地の行政単位ごとに青年会議所というものが設立されており、日本の西東京市にある青年会議所が、私たち西東京青年会議所となります。

さて、本日、まちづくりシンポジウムということですが、まちづくり、まちとは人が集まってまちとなっています。ならば、そのまちを守るのも、発展させていくのも、人であるというふうに私たちは考えております。まちづくりとは、まず人づくりではないでしょうか。青年会議所とは 20 歳から 40 歳までの青年が、明るい豊かな社会、まちづくりを学ぶ学校であります。40 歳になってこの青年会議所を卒業したときに、まちづくりというものを実行できる人材になれるように、私たちは今、学んでいるところです。20 歳から 40 歳までの同世代の若者同士が、お互いに研鑽し合いながら友情を育み、社会への奉仕、まちづくり運動と

いうものを通していきながらリーダーシップについて学び、40 歳になったときに地域のリーダーとしてまちづくりを実行できる、そのようなことを目的に私たちは活動しているところです。今、この会場の中にいらっしゃる方々、この地域の行政関係、各種団体、事業者の方々の中にも、若いころ青年会議所で学んだという方はたくさんいらっしゃいます。今、見て、先輩方の姿もたくさん見えているところでございます。先輩方ありがとうございます、後輩頑張っております。

その先輩方とこの西東京市の関わりですが、西東京市は、2001 年に、旧田無市、旧保谷市の行政合併により誕生いたしました。この行政合併を究極のまちづくり運動として、10 年にわたり合併推進運動を続けてきたのが私たちの青年会議所の先輩方です。そして、西東京市が誕生した後も、市民の方々にこのまちに関心を持ってもらいたい、行政に参加してもらいたいという思いから、市長選挙のときは公開討論会なども行ってまいりました。

現在の私たちの活動について、一つ主なものをご紹介いたしますと、毎年５月に行っておりますわんぱく相撲というものがあります。先月、５月も、田無小学校の校庭にてわんぱく相撲大会を行いました。わんぱく相撲大会は、幼稚園、保育園の年長児から、小学校６年生までの 200 名を超える子どもたちが参加しております。子どもたちの大会ですので、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんたちも集まってきて大変にぎやかな事業となっております。もともとは子どもたちの健全育成、体力増進、精神の鍛錬、礼儀作法を身につけるといった人づくりのための事業として始まりましたが、10 年以上続けているうちに、子どもたちのわんぱく相撲を中心に地域の大人たちが集まってきて、子どもたちのために何かもっと盛り上げてあげようと、地域の方々がボランティアスタッフとしてお手伝いいただいたり、お祭りの出店のようにお店を出して盛り上げてくれたり、だんだん子どもたちを中心に地域の大人たちが集まってきて、そこで交流をして、だんだん地域を活性化させていく、盛り上げていくまちづくりの事業へとつながってきております。子どもたちは、そういう大人たちが、自分たちのために汗を流して一生懸命お祭りのように楽しくやってくれているその姿を見て、それが胸の中に思い出となって、やがてそれがこの地域への郷土愛となり、子どもたちが大きくなったときに、このまちを愛し、またこのまちを活性化させ盛り上げてくれる、そうやって未来につながるまちづくりに、この事業がなっていくんじゃないかなというふうに思っています。

西東京市は、自然や利便性、それらをうまく調和したとてもいいまちだと思います。青梅街道沿いに宿場町として発展した歴史であったり、市内には大学もあります、東大農場もあります、またアニメの制作会社というものもたくさんあります。世界に活躍する野球選手、サッカー選手もこのまちから誕生しています。さまざまなコンテンツがありますが、それらがうまく連携し合って、子どもたちが心豊かに成長できるような、そういうようなまちに西東京市が発展していけば、だんだん地域が明るく活性化していくのではないかなと思っております。そして、それらのために私たち青年会議所は、日々運動を続けていくことになります。まちづくりをする上で考えなくてはいけないのは、このまちの未来というものは子どもたちが持っている、子どもたちこそまちの未来である、そのように考えながら取り組んでいきたいと思っております。

先ほどの話の中で、市民参加、協働というようなキーワードが出てきました。実は西東京

市の中には、まちづくりというものに関心を持っている若い人たちがたくさんいます。私たち青年会議所とは別にいろんな方が活動していますが、今まではお互いの存在、どんな活動をしているかということがよく分かっていませんでした。それが、ここ最近になって、例えば、フェイスブックというようなソーシャルメディア、そういうツールを利用することによって、実は他にも同じようなことを、このまちを明るくしよう、楽しくしていこうという活動をしている仲間たちがいるのだということがだんだん見えてくるようになりました。

私たちのこの青年会議所は、異業種交流の場でもあります。私は、今、保育園に勤めておりますが、メンバーの中にお米屋さんもいます、花屋さんもいます、印刷屋さんがいます、建築関係もいます、市議会議員もいます、いろんな人たちが集まる場であります。今、まちづくりに関心を持っている若い人たちが手を取り合って、協力し合って西東京市を発展させていくこと、それが私たちの考えで、明るい豊かな社会というものにつながっていくのではないかと考えております。そのために、どんどん私たちは、積極的にまちづくり運動というものに携わっていきたいと考えております。これからも西東京市、そして、日本の未来のために若い世代の代表として活動していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

■社会福祉法人 西東京市社会福祉協議会 事務局長　　望月 利將　氏

ただ今ご紹介いただきました、西東京市社会福祉協議会の事務局長をしております望月と申します。よろしくお願い申し上げます。

多くの方に、社会福祉協議会は何をしているところなのか、よく分からないというお話をお伺いします。私ども社会福祉協議会では、社会福祉協議会だより『ゆめはーと』というものを年４回全世帯に配布したり、ホームページやチラシ等で事業の PR をしておりますが、なかなかご理解をいただいていないようです。

これからも社会福祉協議会の活動はどういうものかということを、多くの人たちに知っていただくように努力をしてまいりたいと思っております。

では、具体的に社会福祉協議会がどんなことをしているかということを、例示的にいくつかの事業についてお話をさせていただきます。

社会福祉協議会は社会福祉法第 190 条で、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」と規定されている公共性の高い法人でございます。「地域で福祉を推進する」というのは、き

わめて抽象的でございますが、地域で民間の方々の自主的な福祉活動の中心となり、市民の皆様方の参加する福祉活動を推進し、地域の保健福祉の諸問題、生活課題の解決に、市民の皆様と協働しながら、安心して暮らしていける福祉コミュニティづくりと、地域福祉の推進を使命としております。

具体的な事業として、いくつかお話をさせていただきたいと思います。

ひとつ私ども社会福祉協議会が取り組んでおります事業で、「ふれあいまちづくり推進事業」というものがございます。この事業は、市内の小学校通学区域が 19 校ありますが、20 地区で「ふれあいまちづくりの住民懇談会」を住民の人たち自ら設置していただき、私ども社会福祉協議会の職員がそこに参加して一緒に地域の生活課題を発見し、それに対して地域の中でどのように解決をしていこうかという形で懇談会を設けて、世話人の方たちが中心になって懇談会に参加していただいて、いろんな地域での取り組みをしていただいているところでございます。それを社会福祉協議会も支援をさせていただいております。

具体的に地域でどのような活動をされているか例示を申し上げますと、高齢者の方を交えて茶話会・昼食会の開催、地域の美化活動、防災の懇談会、児童や高齢者の方の見守り、防犯講習会、地域のパトロール等、地域によってさまざまでございますが、それぞれ課題を発見して、それに対して自主・主体的に取り組まれております。それを、社会福祉協議会の職員が一緒になって参加させていただいき支援しているというのが、一つの大きな事業と言うことができると思っております。

それから、２点目ですが、地域福祉コーディネーターという仕事がございまして、これは市からの受託事業で、社会福祉協議会には福祉の専門の勉強をした職員が多くおりますことから、地域のコミュニティの色々な問題、課題についてご相談に乗りながら、地域の課題解決に向けて職員を配置しています。昨年まで１名でしたが、今年２名配置することができ、相談をお受けし、関係機関と連携を取りながら課題解決のため市民の方と取り組んでおります。

具体的なものとして、ゴミ屋敷があって市民の人たちが困っていらっしゃる。それを急激に対処するのではなく、市民の方と協力をしながらゴミ屋敷の解決を進めていくといった例もございます。

それから、多くの市民の方との協働というのでしょうか、「あいあいサービス」という有償援助サービスですが、地域の方で援助を必要とする方とその援助を提供できる方との調整役として「あいあいサービス」の事業を進めております。また、「ファミリーサポート事業」といいまして、小さなお子さまを抱えている、お子さまを預かる方と、預けたい方との調整役、そうした事業も社会福祉協議会が実施しております。さらに、障害者の方の就労の場としての作業場を運営しています。事業的にはいっぱい、それ以外にも色々ございますが、そのような事業を実施しております。

共通して言えることは、市民の方と一緒になって地域課題の解決に向けて連携・協働して、社会福祉協議会も一緒にご協力、支援をさせていただいているというところが、社会福祉協議会の事業の主な取り組みの状況になっているということでございます。

この言葉は受け売りですが、福祉というのは普通に暮らす幸せ、それを支えていく、支援していくことが福祉なのだというお話を聞いたときに、そのとおりだなと思いました。普通

の暮らしを市民の人たちと一緒になって、支え、解決に結びつけていく、そうした社会福祉協議会の使命を、これからも皆さんと一緒に協働しながらやっていきたいと思っております。

社会福祉協議会の事業説明になってしまったところが多くございましたが、皆様方と協働してこれらの事業を実施していくことが、地域福祉の推進の大きな使命になっているところでございますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

社会福祉協議会、私の夢というか、福祉の夢というのは、地域の人たちが温かく安心して暮らせる、そういう生活を実現できる、そういったまちにしていきたいというのが、私ども社会福祉協議会の夢であるというふうに考えております。どうかこれからもよろしくお願い申し上げます。

■西原自然公園を育成する会 会長　　池田 干城　氏

池田干城と申します。50 年ほど田無に住んでおります。今日は、西原自然公園を育成する会の代表ということでこの機会をいただいたのですが、私は５つの分野で市民活動をしております。まず西原自然公園を育成する会では、10 年ほど前から雑木林を若返りさせるという作業をしております。作業は本当に草刈りという仕事が一番多い、肉体労働のボランティアです。この他に私個人としまして色々なところに出ておりまして、まずゴミを減らす活動ということを、同じぐらいのウエイトでやっております。それから、大気汚染の測定ということもやっております。それから、消費者団体にも加盟をしておりますし、公民館でも色々なことをやらせていただいております。ここまで自己紹介ということで、本題ですが、持ち時間９分ということですので少し原稿を読ませていただく調子になるかも知れませんがご了解ください。

３つのキーワードでお話ししたいと思います。１つ目は、シチズンシップという言葉です。私は以前から西東京市民はすごく優秀だなというふうに感じていました。市民のレベルが高いなっていうふうに思っていたのですね。それをどういう言い方がいいかなと思っているときに、この言葉に出会ったわけです。それは、自分の住んでいるところが好きで、大切に考え、市民としての責任をきちんと果たすこと、という意味だと書いてありました。一つの例として、西東京市のごみの収集が有料になったときの市民の対応を挙げたいと思います。私は、西東京市だけでなくて多摩全体とか、23 区にも出かけて行くというようなことが増えていますので、よそと比べることができるのですが、ごみの有料化に対して西東京市民は本当

によく理解をしてごみの量を 20%減らしました。それを１回減らしたらおしまいというのではなくて、ずっとキープしているということがすごいことなのです。よく、他の市の人と出会いますと、西東京の人はすごいねって、いつも言われております。

もう一つ似たような例になりますけど、レジ袋辞退率調査をやっております。10 月に行うんですが、西東京市民は辞退をする人が多いですね。一斉に、10 月のいつからでしたか、決められた日に、スーパーのレジの所に立ちまして、何人辞退するかを数えるのですが、西東京市の人は、50%は辞退するようになってきました。50%という数字は、これはなかなか大きな数字で、新聞記事にでも出るぐらい、高い数字です。こういうふうに私、ごみのことばかり言いますから、ごみぐらいで、市民のレベルの判断ができるのかって言われる方があるかも知れませんが、私は反対に、ごみが一番市民の責任のバロメーターだと思っています。西東京市民はシチズンシップを持った人が多いのだなと思っています。

次のキーワードは協働です。先ほどから協働がいっぱい出ますし、割合安易に使われていますが、私は、本来は、協働とは行政の決めたことの下請けをすることではなくて、市民から提案をしたり、実績を示したりして、それを行政が取り入れていくことが協働だと思っております。その例として、西原自然公園の草刈り作業ですが、これも市民の提案から始まっております。古くて、少し木が枯れたりして危なくなっていたのを、ボランティアが引き受けますよという形で始まりました。スタートのときもそうして始まったのですが、始まりだけではなくその後が大事だったと思っています。やはりこれは信頼がなければなかなかうまくいきません。行政と市民の信頼によって継続できるというように、協働というものを考えております。

例えば、一般の市民の方から市の方に、草刈りをするときには、あそこにミズヒキグサとツユクサがあるから刈らないでくれなどというような電話がかかってきましたときに、私たちに、すぐ市の方から相談をしていただきます。こちらの作業ペースというようなことを考えていただけるというような、扱いをしていただいています。その代わり今度、私たちは、ボランティアは要求をしないことが大事というように考えております。ボランティアをしますと、つい、あれ買って欲しいとか、こういう事をして欲しいとか言いたくなることもありますが、それは絶対言わない。要求するようになったら協働は成り立たないかなと思っております。

もう一つの協働の例は、お茶わんリサイクルということで、ご存じかどうかですけれど、これは、壊れたりいらなくなったりしたお茶わんを、お茶わんというか食器ですね、食器を集めまして、岐阜県の多治見市に送ってまた粘土へ戻してもらう、リサイクル粘土を作ってもらうという活動をしています。始めたのは７年前です。これも、私がちょっと話を聞いて、消費者センターで行う消費者生活展に提案したわけですが、それで２～３年実績ができまして、段ボール 20 個ぐらいずつ送るようになりまして、これが、ごみ減量推進課の人たちが見ていて、今では月に１回行われますごみ減量推進課のリサイクル市で場所を用意してもらえるようになりました。

これも行政には依存しません。送るのも運賃がかかりますが、集めるのも、検品も、発送も、運賃も自力という考え方です。ただそのように言いますと、市民が負担すればいいというように思われるかも知れませんが、私はそのようには思いません。やはり市民活動にお金

を払うこともして欲しいですし、それでも、こういうような形が協働だと思いますし、最近言われております新しい公共ということも、この辺の話に入るかなと思っています。

最後のキーワード、市民は横糸と思っています。行政は縦割りと昔から言われますが、私は市民は横糸と思っていまして、そうすると行政は縦糸と思いたいのですが、これも今の事例で言いますと、お茶わんリサイクルを始めたときに、これは消費者活動ですから、協働コミュニティ課の方で始めたのですが、それでリサイクル粘土を送っただけでは使わないと思い、公民館の陶芸サークルで使ってもらうよう公民館に話しに行きました。公民館でも回収をしたいということで、消費者団体から後応援に行くというようなことをして、公民館につながりました。それを見ていた、今度は環境保全課の方が、公民館の職員の方に、公民館でいいことやっていますねと、なんとか横に広がってつながっていくというようなことになりまして、今の現状につながっております。

もう一つの例として苗木の話ですが、私たちメンバーで椎とか、樫とかを育てて、本当は西東京市のどこかの公園に植えて欲しいと思っていたのですが、みどり公園課に交渉しましても、もう公園に余地が無いと言われて、じゃあどうしようっていうので、日の出の埋め立て地に植えられないかとごみ減量推進課に話を持っていきましたら、すぐに交渉していただき、100 本の苗を日の出まで運んでくれまして、向こうで植えていただくということができました。

このようにして最近だいぶ柔らかくなってきたなっていうことを私は感じているのですけど、縦糸が柔らかいと、市民が横糸でやっていけるというように思っております。これでまとめといたしまして、今回の新しいまちづくりの方針には、この市民の特性を生かして、市民の力を活用する、そういう施策とか方向性をぜひ取り入れていただきたいと思うところです。

■特定非営利法人 生活企画ジェフリー 理事長　　渡辺 美恵　氏

渡辺美恵でございます。よろしくお願いいたします。一番しんがりを引き受けさせていただきます。今、池田さんの方からお話がありましたように、視点は違いますが、私もこの西東京市の市民、あえて私は旧田無、旧保谷市民の方々に敬意を表するお話をこれからさせていただこうと思っております。

私は、NPO 法人生活企画ジェフリー理事長の渡辺美恵と申します。よろしくお願いいたします。私どもは、今日お配りしてございますお手元の資料の団体紹介にも書きましたように、男女が協働して互いに尊重しあえる社会づくりのために調査、研究、相談、支援、それから、講座、セミナーなどの事業を幅広く行っております。設立は 2004 年 4 月ですので、この春から 9 年目を迎えまして、その活動を開始しているところです。

実は、NPO 法人になる前は、旧田無の中央公民館を拠点に活動をしておりましたグループで、10 年目を迎えたときに、世の中には NPO 法人というものができたそうだと。それは、実はもっと専門性を磨き、社会的責任ある貢献活動ができるそうだと、それだったら私たちもちょっと頑張ってみようじゃないかということで、分野的にはまだまだ珍しい分野でしたが、男女協働参画という分野をもって今日まで走り続けてまいりました。スタッフたちとは創造性豊かに志高く、苦労も楽しみも共にしてまいりました。信頼はもとより、話し合える仲間たちがいるということは生きる元気につながると、この年になってしみじみ感じております。これからも、今まで以上に地域の課題を解決するために動きたいと考えております。皆さまもそうだと思うのですが、市民であることに定年はございませんので、命絶えるまで、ぜひこの西東京市のためにご一緒に働けたらなと思っております。

実は、活動ですが、私たちは男女平等というものをあまり狭く考えずに、広く、暮らしの中の諸問題を解決する一つの手段だと捉えて、色々な方々と手を取り合って助け合うことを大事にやってまいりました。丁寧に紡いできた人とのかかわりは、このまちに暮らし、活動できてよかったと思うことばかりでした。主な活動等詳細はぜひ生活企画ジェフリーで、ホームページをご覧ください。細かく書いてございます。ここでは近年の活動からいくつかを紹介させていただきます。

まず 2010 年の暮れに発刊いたしました『西東京市の女性の聞き書き集』ですが、市民の底力を見せつけられ、身震いするほど圧巻です。ぜひお読みください。80 歳から 90 歳代の先輩女性たちの暮らしの歴史は、戦後の不便や不正を改革し、まちを変えてきた原動力になっていました。そうして、この冊子を読まれた市民からも、こんなに女性の自治力豊かなまち

だったんですねと、このまちを誇りに思いますというご感想を、お一人、お二人ではなく、何人もの方からいただいたことは、逆に私たちが大変勇気づけられました。こういうものが出たということを、まだご存じでない方もいらっしゃると思いますので、図書館、公民館、情報公開コーナーに置いてございます。これは西東京市の補助金でできており、皆さまの大事な税金を頂いておりますので、ぜひお読みいただけたらと思います。

そして、もう一つは今年３月に発行したばかりなのですが、NPO 等企画提案事業でこの冊子を作りましたが、そのときの活動の記録を残しました。活動の記録といいますと大変手前味噌で、私たちこんなに頑張ったのよとか、こんなことをやったのよ、見てちょうだいということが多いかと思いますが、それだけでは皆さまの税金を頂いて作るには申し訳ないと思いましたので、今日のテーマになろうとは思っておりませんでしたが、私ども、NPO 等企画提案事業に色々な形で参加して今まで経験してきましたが、そのときに、協働、協働と、よく職員さんがおっしゃりますが、いったい西東京市の協働ってどういう歴史を持って、どういう意図を持って私たちに提案されているのかということを、一度しっかりと整理してみたいなということで、第１章を協働というところに絞りまして、まとめてございます。

このセールスポイントは、実は協働を推進した当時の職員さんにインタビューをしております。10 年前に市民参加条例を作り、現在東京都にいらっしゃる宮沢さんを追いかけて行きまして、現在東京都の課長職でいらっしゃるのですが、インタビューをしたり、市民参加・協働の基本方針の見直しをされた金子さんという女性がいらしたのですが、その方も、現在墨田区の教育委員会に勤めていらっしゃるんですが、墨田区まで行ってインタビューしてまいりました。ついでに、高いタワーがすぐそばにありまして、そんなものも見てまいりましたが。セールスポイントは、つまりは、血の通った報告書にする、報告書といいますか、当時、職員さんたちがどんな思いでこのまちづくりをしたか。当時ということは、西東京市になるときにどんな思いだったかということが、これを読むことによってお分かりいただけるかと思います。その結果、職員や市民のまちづくりへの熱い思いを記録することができ、施策は誰のためでもなく市民のためにある、市民のためのまちづくりが行われようとしていた、行われていたといっていいでしょうか、そのようなことがよく分かりました。ぜひこれもまた、先ほど同様、図書館、公民館、情報公開室に置いてございますので、ご興味のある方はご覧ください。

そして、私どもの活動紹介の最後なのですが、残念ながら東日本大震災、もう本当に厳しい状況が私たちの前に露呈されてしまいましたが、西東京市にも東北の方から避難、移住されている方たちがたくさんいらっしゃいます。私の知る限り四十数世帯、百六十何名と聞いておりますが、その方たちを対象に、被災者交流事業、東北の皆で話そう会を昨年度２回実施させていただきました。生活企画ジェフリーは企画運営を担当いたしました。被災された方々のご苦労や理不尽さなど、計り知れないつらい思いに寄り添うことができるのだろうかと、とても心配しながら、悩みながら進めましたが、無事に終了いたしました。参加された方々からは、「元気づけられました。」とか、「私たちのためにありがとう。」とか、「もやもやしていた気持ちがしばし忘れられてよかったです。」と、逆に私たちの苦労をねぎらってくださったり、配慮してくださって優しい言葉を頂きました。私どもスタッフは、被災地や避難所などにも何度も足を運びまして、さまざまな支援やチャリティーも行ってまいりました。

支援はこれからも続ける予定でございまして、今年度も新たな事業に取り掛かっているところです。

以上、紹介させていただいたこれら事業は、すべて西東京市と協働で行っております。協働にはたくさんの形がございまして、補助金や助成金、それから、実行委員会もそうで、色々な形でやってまいりました。そうしたときに互いの専門性を惜しみなく出し合い、目的に向かってまい進してまいりましたが、すべて順調にいったわけではありません。行き違いや齟齬（そご）が生じたことも多々ありましたが、そんなときはいつも課題を先送りせず、互いの言い分をじっくり話し合い、理解し合い、解決してまいりました。

問題に直面したときに、あなたならどうするかということですが、市民か、職員か、色々な立場によって違いますが、臆してしまう方もいらっしゃるし、逆に威嚇してくる方もいらっしゃるし、泣いて訴える方もいるでしょう。また逆に、お相手の悪口を言い触らす方もいらっしゃると思うのですが、どういう解決をするかということは、私たちは成熟した市民としての市民性と、それから、行政の方たちは行政の職員性、やはりそれらはきちっとした裏付けの中で話し合いのできる関係になったらいいかなと思っています。

最後になりましたが、西東京市のよいところや、セールスポイントを２つお話しして終わりにしたいと思います。１つ目は、なんといっても市民の自治力です。先ほど池田さんはシチズンシップとおっしゃいましたが、言葉を変えているかもしれません。と申しますのは、自治力という言葉を使ったのは、先ほどのお話でも紹介しましたように、『西東京市の女性の聞き書き集』にも再三登場してまいりました旧田無市、旧保谷市が育ててきた公民館活動や、社会教育に裏打ちされた歴史ある自治力です。その力は、合併後も市民参加条例策定に大きく花開きまして、全国的にも誇れるよい条例を編み出しました。当時は随分全国から視察者がいらしたようです。こうした市民力は今も健在なのではないかと、私は自負しております。

２つ目ですが、これはやはり協働の推進です。協力して共に働く。先ほど紹介したこの活動の記録の第 1 章をご覧いただくと、合併を機に、協働をキーワードとして、市民も心ひとつに思いも熱く施策作りを進めてきたことがよく分かりました。こうした血の通った自治体運営の成功には、行政職員さんの努力があったということは認めなければいけないと思います。地方分権が進み、市の企画力や独自性が試される時代到来に、市民との協働は欠かせないものになっていくのではないでしょうか。先ほど、和田会長の方からグローバルのお話がありましたが、私ども NPO 法人はシンク・グローバル、アクト・ローカル。考えていることは世界シェアであったり、全国シェアの情報を得なければいけませんが、具体的に動くことって、そんなに動けないですね。少ないメンバーの中でやるといいますか、この地域をどうするかというところで、行動はローカルに、ということで、思いは大きく、しかし活動は着実に一歩一歩というところでやっております。

皆様もお疲れかと思いますので、この辺で終わりにさせていただきます。最後でございますが、皆様、今日は市報をご覧になっておいでになったと思うのですが、私はびっくりしました。企画政策課が頑張ってくださっていたと思うのですが、市民に、窓口広く、みんなの声を集めるよというメッセージがよく伝わってきて、どうやったら総合計画を市民の方にご理解いただき、そして、情報を集めたいかという思いが私にはよくとても分かり、その努力に対して敬意を表したいなと思っております。ありがとうございました。

●まちづくりゆめトーク

坂口　皆さんこんにちは。これから、第二部のまちづくりゆめトークを始めさせていただきます。出席は先ほどの４名の発表者の方と、総合計画策定審議会の会長、副会長でございます。

それでは最初に、それぞれの立場からこれからのまちづくりの夢を少しお話しいただきましょう。順にお話しいただければと思います。まず海老澤さん、お願いします。

海老澤　引き続きよろしくお願いいたします。西東京青年会議所の海老澤でございます。まちづくりの夢ということですが、私、先ほど、まちづくりはまず人づくりからというふうにお話しいたしました。お話ししたように、この地域の若い世代には結構まちづくりというものに関心を持ってる方がたくさんいらっしゃいます。そういう方々と先ほどから皆さんも言っております協働というものをしていきながら、この西東京市、まち全体を若い力で明るくしていきたいなと思っております。それが私たちの目的でもありますし、夢でもあります。以上です。

坂口　池田さんお願いします。

池田　先ほど私、事例ばかりを申し上げました。それを渡辺さんが最後にうまい具合にまとめていただいて、夢は大きく、小さく実行するというようなことで、そういうやり方を、私はこれからも続けていきたい。やはりまちづくりはそのようにして、それぞれ自分ができることをやっていくということではないかなと思っております。

坂口　ありがとうございます。それでは望月さん、お願いいたします。

望月　私どもは、地域で「ふれあいのまちづくり」をやっておりますが、地域の人たちが集える拠点があちこちにでき、安心して話し合え、協働できる、そういう場所が必要なのかなと思っております。社会福祉協議会では５カ所ぐらい場所を確保しておりますが、それをもっともっと地域の中に広めていきたい。そして、地域の中で皆様が触れあえるという夢を実現していきたい。先日、１カ所、社会福祉協議会に場所をお貸しくださるという方が出ていらっしゃいました。住宅街のとてもいい場所で、これから集える場所として活用できるような、素敵な場所でした。これからもあちこちにそういう場所ができるようなまちづくりを、私としては夢を持ちたいと思っております。

坂口　ありがとうございます。それでは、渡辺さんお願いします。

渡辺　私は２つ、手短にお話ししたいと思います。一つは、先ほど『西東京市の女性の聞き

書き集』を作ったお話をしたのですが、かつて、旧田無は、全国に先駆けて 1984 年に男性職員にも育児休暇をという、どこにもないものを作って大絶賛されて大変だったんですね。いまだに上野千鶴子さんにお会いしても、あっ、田無、そうよね、あのまちよねと言われました。それから、女性議員比率も全国一だったことがございました。そういう何か秀でた一つアクションを起こしてくだされたら、見えるまちになれるのではないかなと思っております。

それから、もう一つは、私、先日４人目の孫が生まれまして、この子が 10 歳になったときどんなまちなるのかな。私は、今 66 歳ですから、76 歳になったら、私はどんな老後を送るんだろうかと。そんなこんなを考えますと、やはり安心して暮らせるまちにしたいなと。安心というのは色々な安心があると思うのですが、多分野、まさに NPO と行政が協働して色々な分野の安心を提供できるまちになって欲しいなと思います。

坂口　ありがとうございます。先ほど和田先生から時代が変わってくる、変わってきているというお話がありました。これからの時代は高齢化とか、少子化、経済格差、或いは災害、色々な問題があるかと思うのですが、そうした時代が、「やれ行け、どんどん。」の時代から少し足元を見ていく時代、そんな中で今お話しいただいた４団体の方、これからの時代をどのように受け止めておられるのか、少しお話しをいただければありがたいです。海老澤さんからお願いします。

海老澤　まちづくりということで、青年会議所としましては、様々な分野で色々なことをやっているわけでありますけれども、その中で一つひとつの経験を積むことによって、団体としてというよりは、一人ひとりがまちづくりの人材となっていけるということを目指しております。

坂口　それでは、池田さんお願いします。

池田　皆さんの話を聞いて感じたんですが、やはり今日、同じまちづくりでもハードウエアの話は全然出ません。全員がソフトウエア、これからそういう時代なのかな。同じまちづくりでもあっても、人の結びつき、人やソフトウエアでまちをつくっていく、というようなことに基づいて考えたいなと思っています。

坂口　ありがとうございます。それでは、望月さんお願いします。

望月　私の場合もソフトが中心ですが、ソフトとハードの両方が必要だと思っております。先ほど地域の居場所というような話をさせていただきました。それは、ハード的な要素があります。それだけではなく、ソフトの仕組みも大切だと思っております。そのためには、地域コミュニティというものがとても重要です。西東京市は残念ながら自治会や町内会が非常に低い組織率と伺っております。自治会、町内会だけがコミュニティではありませんが、色々な要素の地域コミュニティがあってよろしいのではないかと思います。地域コミュニティはソフトの部分であると思いますが、ハードと、特にソフトの部分も含めたこれからのまちづくりが重要だと考えております。

坂口　ありがとうございます。それでは、渡辺さんお願いします。

渡辺　改めてまちづくりの主役は市民だよというのをもう一度確かめたいなと思います。情報が豊かになったり、行政サービスが充実してきていますので、頼めば何でもやってもらえるんじゃないかというところで、自身が参加しないままお任せ的なものがなくはないか

なという感じはしています。ですから、まちづくりの主役はあなたよ、市民よということをもう一度確認したいなと思います。それで、市民は要求するだけではなくて、自らもまちづくりに参画する存在なのだということを、私も皆さまに要求するのではなく、もう一度確認したいなと思っています。それにもう一つ、行政の職員さんも、ぜひ市民感覚を磨いていただきたい。そうではない方はたくさんいらっしゃいますが、おしなべて、行政の職場にいると行政の視点になってしまうのですね。でも行政の仕事って市民のためにあるわけですから、そうすると市民感覚ってどういうものなのかということを、もう一度考えていただければいいのではないかなと思います。

坂口　ありがとうございます。それぞれお話をお聞きしていて思ったのですが、悲壮感ではなく、何か楽しみながら活動されているということに、非常に感銘というか、感動いたしました。小西さん、４人の方のお話を聞いて、思いを少し話していただくと、よろしくお願いします。

小西　審議会の副会長を務めさせていただいております小西です。よろしくお願いいたします。今日、４人の方のご報告を伺って、西東京市民の、特に活動されている団体の方々は非常に前向きで、明るい展望を持ちながら明るく前に進もうとされており、それがまず大きい印象でした。審議会では、これからの 10 年の計画に対し、どのようなことが望まれており、どのように意見を集約するかということについて、いくつかの企画を立てておりました。その中で企業・団体ヒアリングも実施し、50 団体ぐらいの方にお越しいただいて、現在の活動、そして、今後の活動にあたり、市がどのようになって欲しいかということについて思いを語っていただいきました。私もいくつか参加させていただきましたが、どの団体もやはりこの市に対するすごく思いが強いなということを感じました。

先ほどシチズンシップという言葉で表現していただきましたが、市民のレベルが高いというか、それは私も強く感じました。今日、４人の方が代表されて、この場で皆さんに活動報告をされましたが、その 50 団体の方々は、例えば、防災の立場の方もおられて、この市を守るためにどのような活動をしているかという、もう本当に強い思いを語っていただきましたし、或いは、文化団体や、スポーツ活動をやっておられる団体の代表の方は、この市の文化活動がどういうところにあるか、どのようにそれを盛り上げていこうとしているかということを、それもまた大変伝わってくることを発言されておりました。

ですから、今ここで一つ思うのは、私たちの審議会としてこれからどういう計画にそれらを盛り込んでいくかということはありますが、審議会の最初に、計画の一番中心にくるのは、平成 16 年に、市民憲章を作られておりまして、１、たがいに助けあうまち、２、みどりに満ちた美しいまち、３、ゆめの広がる楽しいまち、４、こころ豊かな学びあいのまちという４点からなっておりまして、その前文に、市民一人ひとりがいきいきと暮らせるまちというのが付いており、それを根底にというか土台にして計画を築いていこうという話がなされました。

そのときに、今いくつかご紹介がありました、パワフルで活動的な諸団体の思いをくみ上げながら策定作業を行っていく上で、西東京市の 20 万の市民の方々は、せっかくこの西東京市にこういうアクティブな市民がいて頑張っているということを残念ながらご存じない。だから、私たちはまちづくりをやっていくときに、活動そのものをお互いに共有

するというか、知り合うというところが、まずスタートかなと思いました。

坂口　ありがとうございます。先ほど和田先生から非常に論理的にこれからの方向性をお話しいただきましたが、４人の方から皮膚感といいますか、市の吐く息、吸う息といいますか、息づかいのようなお話を聞かせていただいたと思うのですが、先生その辺と、先生の観点からいくとどうですか。

和田　４人の方々のお話、これまで私どもは、審議会のメンバーで議論を重ねてまいりましたけれども、実は、私個人からすると、多分 15 年前ぐらいですか、公民館に一度呼ばれまして、市民の方の前で少しお話をした機会があるのです。そのときの印象も、公民館活動が大変活発だということは本当に身をもってそのときに感じた次第でした。そして、今回こういうような機会に本当に恵まれ、この間、審議会のメンバーの皆さんとの話し合いも含めて、改めて客観的に西東京市を見てみると、先ほども何人かの方から話が出ましたとおり、公民館活動や市民活動、或いは行政も含めてでありますが、やはりその活動の蓄積が現在に生かされています。それを、行政の側もくみ取りながら、そういう意味では本来的というのか、今日、盛んに出ておりました行政と市民との協働が着実になされてきており、特に、合併を契機或いはそれ以前のものも踏まえた上でも正解だということがよく分かったのですけれども、本当に認識というものが、ますますいい方向に深まってきております。

１カ月ほど前、市内を案内していただきました。そのときに、ここは武蔵野の住宅地のいいところだなということを本当に感じました。そういう中で、ここを生活の拠点としていて、市民の皆さんのそういう環境の中での、しかも、先ほどの自治力であるとか、市民力ということの意味を本当に感じて、これをどう展開し、さらにより良くしていくために、この総合計画がどういうものにしたらいいのかということを本当に考えたところであるわけです。先ほど、私は都市成熟化時代ということを言いましたが、その意味では、これからの地域での住まい方というのは、まさに西東京市で育んできたこういう一つのあり方が、安心・安全とか、安定した社会の一つのあり方がここにあるなということを思いました。ですから、開発をしたり、きらきらとした成長もあるというよりも、やはりゆったりとした、こうした豊かな緑の中で生活をしていくことの重みというものを感じたところです。

今日、改めてまた４人の皆さんのお話を聞かせていただいて、青年会議所の、わんぱく相撲ですか、これは、ご父兄や、或いはおじいちゃまやおばあちゃまの世代も入って、子どもの問題から、取り組みから、まちづくり事業へと展開しています。これはちょっと教えられました。それから、社会福祉協議会でやられているふれあいまちづくり事業で、懇談会はまさにコミュニティですよね。内容は福祉に特化しているわけではないわけですから、まさにまちづくりコミュニティ形成の内容だなということを教えられました。西原自然公園を育成する会の池田会長のお話も、これまた広がりがありまして、１つの課題から、どんどん派生していく。これもまさにまちづくりへと展開してきているし、生活企画ジェフリーのお話も、これまでの歴史を振り返りながら多様な活動を経て、広がりを持っているのだろうと思ってお聞きしました。

コミュニティ政策として、個々に活動を展開しているものをどうつないでいくか、まさ

に市民協働で、行政との協働も大事ですが、市民間や集団間の協働をどう地域の中で構築していくかというところが今回の総合計画にも生かされるような形で何かできたらいいなということを今日の４方のお話を聞いて改めて感じた次第です。

坂口　会場の皆さんからご意見を聞かせていただきたいと思いますので、何かこんなことをしたらどうだとか、お話を聞かせていただければありがたいです。手を挙げていただけますでしょうか。

会場発言者　私は、石神井川の清掃をしている任意団体の代表です。先ほど池田さんのお話では、ごみが少なくなったということでしたが、どうもその分石神井川に放り込んでいるのかなと思います。毎月、毎月掃除していますが、いつも 90 リッターのごみ袋に３つか４つぐらい出てきます。一番下流の東伏見稲荷神社付近の東伏見小学校のあたりを活動の場としております。そこは、東京都が大変お金をかけて自然河川に改修したところでございます。両側に散歩道、遊歩道があって大変いいところなのです。そういう活動をとおしまして、市と協働しているのは、私たちがボランティアで集めたごみを、ごみ減量推進課の方が、月曜日に収集していただいております。だから、多分私たちはボランティアでごみ拾いをし、市の方でごみを無料で片付ける、それが協働かなと思うのです。

　そういうお話とはまた別に、今日はまちづくりの第二次総合計画でございますから、最近よく、スマートコミュニティ、スマートシティという言葉を聞くんですね。私も自宅に太陽光と燃料電池をつけて、エネルギーの最適化ということでやっておりますが、それは、エネルギー問題を最適化するということではなくて、生活の暮らしの中で色々なことを最適化しようとする新しい実験的な試みなのです。そういうことについて、和田先生や今日のパネラーの方たちがどういうふうに捉えておられるかご意見を伺いたいと思いまして質問いたします。よろしくお願いいたします。

坂口　今のご質問に対してお答え、池田さんどうですか。

池田　私もスマートコミュニティは大事と思います。

坂口　スマートグリッドとか、スマートシティとか、コミュニティという問題については、恐らく時代の要請としてクローズアップされてくるだろうと思っています。これによってエネルギーの供給、それから需要、この辺のバランスの問題もあると思いますので、市の大きなテーマになってくるのではないかなと、私自身はそんなふうに思っています。

会場発言者　夢を語らなければいけないと思って、質問しました。

和田　時代の要請ということもありますが、今後の総合計画に盛り込まれるということは確実だと思います。まちづくりの市民ワークショップでは、今の点で言いますと、６つのグループ分けをしておりまして、その中に環境・景観・ゴミのグループがございます。今のスマートシティといったらいいでしょうか、あるべき個々の一つの都市像としてこういう点が指摘されることは時代の要請だと思いますので、その辺のところでの議論にご参加いただけたら大変ありがたいなというように思っております。

坂口　よろしいでしょうか。それでは続いてお願いします。

会場発言者　今日、お話ししていることで３つお願いします。１つは、今日は新たな市民参加として何人ぐらい該当している人が出ているのかということをお聞きしたい。

　それからもう一つは、新しい総合計画を始めるについて、前年度のやつは、市長がいっ

ているフィードバックされているのか、PDCA で、すべてチェックすると、品質管理の長がですね、そういうふうに市長がおっしゃっていますけれども、これをどのようにフィードバックして新しい総合計画をお立てになるつもりなのか。

もう一つは、西東京市の現状は、果たして縮小・成熟期なのか。縮小・成熟期という言葉自体がマイナーなのかメジャーなのか、この辺をお聞きして、西東京市はどちらの方向なのか、逆に成長期の方へ持っていくべきではないかと、そういうようなご意見があればお聞きしたい。

坂口　ありがとうございました。

和田　前の２つについては事務局の方が今把握しているかと思いますので、３番目の点についてお話をしたいと思っております。縮小と成熟というような言葉を、概念を使ってお話をいたしましたが、成熟については、国の計画でも、国の将来を成熟に焦点を置いた国土形成計画というものを打ち出しておりますので、かなり一般的な広がりを持った概念だといえると思います。それから、縮小についても、５年前ぐらいから欧米の事例なども紹介しながら、ダウンサイジング、まさにサイズが小さくなっていく。サイズが小さくなってくるというのは、人口面で軒並み先進国は人口減少の社会に入っていっているわけですから、これもいうなればかなり広がりを持った使われ方をしているということです。

それでは、西東京市は先ほどいうような成長や、ここでいうところの開発の方向性に向かっていくのかということの質問でございましたが、総合計画ではもちろん市街地整備等々の中では、よそも市街地整備という言葉は使っておりませんですが、都市計画・防犯・防災というような、このワークショップの中ではそのように括られておりますけれども、時代自体は確かに人口面では、日本社会全体であるとか東京都の中心部などに比べたら、そういう意味では子どもの数の割合というものも、東京都全体の高齢化率などを見てみますと、東京都全体の数字と同じくらいになっていて、高齢化が深刻な問題というよりも、まあまだ子どもの声が聞ける、或いは子どもの生活がまだまだできているという点でいえば、おっしゃるとおりで縮小や成熟ではないような、そういうようなこともいえるかもしれません。しかし、やはりこの 10 年を一応目途にしておりますので、そういうことも組み入れた、総合計画を作るというように我々も考えております。また、その予測値も、人口の予測など推定値なども出ていて、そういうものも含んだ総合計画を作っていきたい。そういう意味では、ご質問のあっちかこっちかという問題ではないのではないかというように私自身は思っておりますし、他にも総合計画のメンバーの方がいますので、もしその辺、補足していただけたら大変ありがたいです。

会場発言者　フィードバックしたかどうかという点については如何でしょうか。

和田　それは策定作業の中で、現行計画の点検作業、市民意識調査、行政評価、事業評価も含めたフィードバックをしているということでございます。

会場発言者　いや、先生がこの方針を立てられてたのかということを知りたいのです。

坂口　新たな市民参加手法による本日の参加者数は現在、集計中でございます。

新たな総合計画の策定にあたっては、現行計画との整合性であるとか、うまくいったものいかなかったもの、いろんなものを集計して、それで今回の計画に生かしていくと、取り入れていくと、参考にしていくというふうなことを今やっております。

会場発言者　それならそれらしく、そういう説明をしてほしかったです。

坂口　申し訳ありません。お願いします。

会場発言者　今日、聞いてがっかりしたのは、具体的な段取りが見えないことです。豊かなとか、色々な形容詞はみんな使うけれども。具体的にいうと西武線の立体交差です。もう東武鉄道は全部今やっていますし、それから、例のスカイツリーもやっています。豊かさとか、なんかとかということではなくて、具体的な場所を提示しながら議論しないといけないと思うのです。まちづくり懇談会などの開催を提案をさせていただきます。何か、今日はちょっとがっかりしております。よろしくお願いします。

坂口　先生一言お願いします。

和田　今のような具体的な事業をお示しする内容ではなかったということは、ご指摘のとおりです。具体的な策定作業をこれから進めていくということでございますので、今のようなご提案をどんな形に入れ込むかにつきまして、その一つとしてワークショップも予定されておりますので、より具体的な話については、そのような方法で取り入れていきたいと思っております。

坂口　それでは、もう１人ぐらい。

会場発言者　次の総合計画にぜひ入れていただきたいのは、環境は破壊したら二度と戻りません。よろしくお願いします。

坂口　ありがとうございます。ご意見を参考にしながら、これから策定作業を進めさせていただきたいと思います。まだまだ皆さんのお話をお聞きしたいのですが、時間の制約がありますので、ご了承をお願いいたします。

　時間も５分近くすぎてしまいました。今日は、足元の悪い中ご参加いただきありがとうございました。

まちづくりシンポジウム　アンケート結果

全体概要

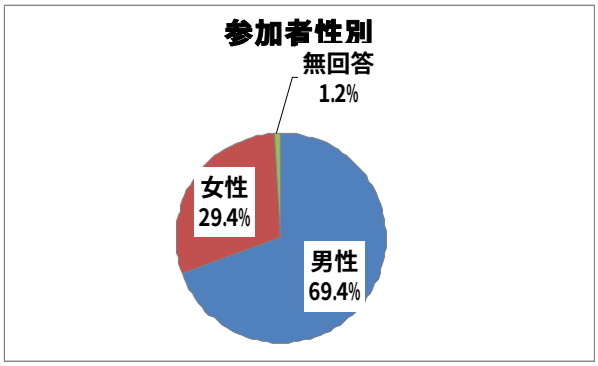
・190 名参加（うち無作為抽出での案内による参加者 20 名）。
・85 名からアンケートを回収。
・男性の参加者が全体の 69.4%（59 名）を占める。
・40 歳以上の参加者が全体の 88.3%（75 名）を占める。
・参加者の居住地域は、西東京市内において多い順に柳沢 11.8%（10 名）、田無町と中町が同じく 9.4%（8 名）、緑町が 8.2%（７名）となった。
・シンポジウム参加の理由は、回答が多い順に「まちづくりに関心があった」34.8%（48 名）、「市から参加案内があった」18.8%（26 名）、「知人や関係者から勧められた」13.0%（18 名）となった。
・シンポジウムに期待していたことは、「西東京市のまちづくりについて知ること」57.9%（70 名）が半分以上を占めた。
・まちづくりシンポジウム全体の感想は「良かった」、「まあ良かった」を合わせて、全体の 74.2%（63 名）を占めた。

1：来場者の特性

・アンケート回収総数は 85 名。
・男性の参加者が全体の 69.4%（59 名）を占める。
・40 歳以上の参加者が全体の 88.3%（75 名）を占める。
・参加者の居住地域は、西東京市内において多い順に柳沢 11.8%（10 名）、田無町と中町が同じく 9.4%（8 名）、緑町が 8.2%（７名）となった。

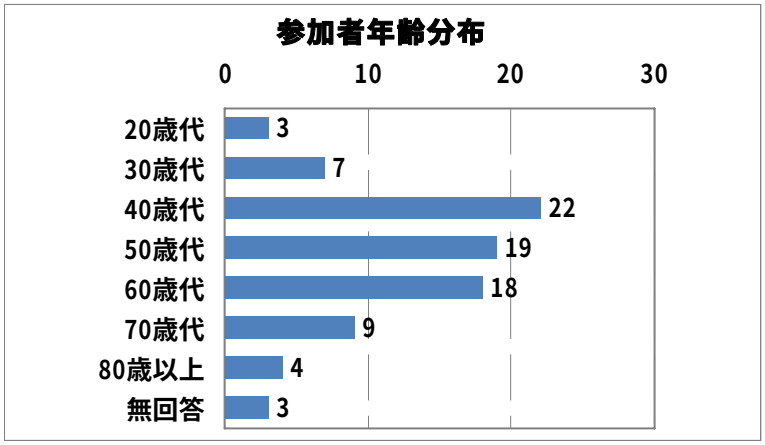
(1) 参加者性別

参加者性別		
性別	人数	%
男性	59	69.4%
女性	25	29.4%
無回答	1	1.2%
合計	85	100.0%



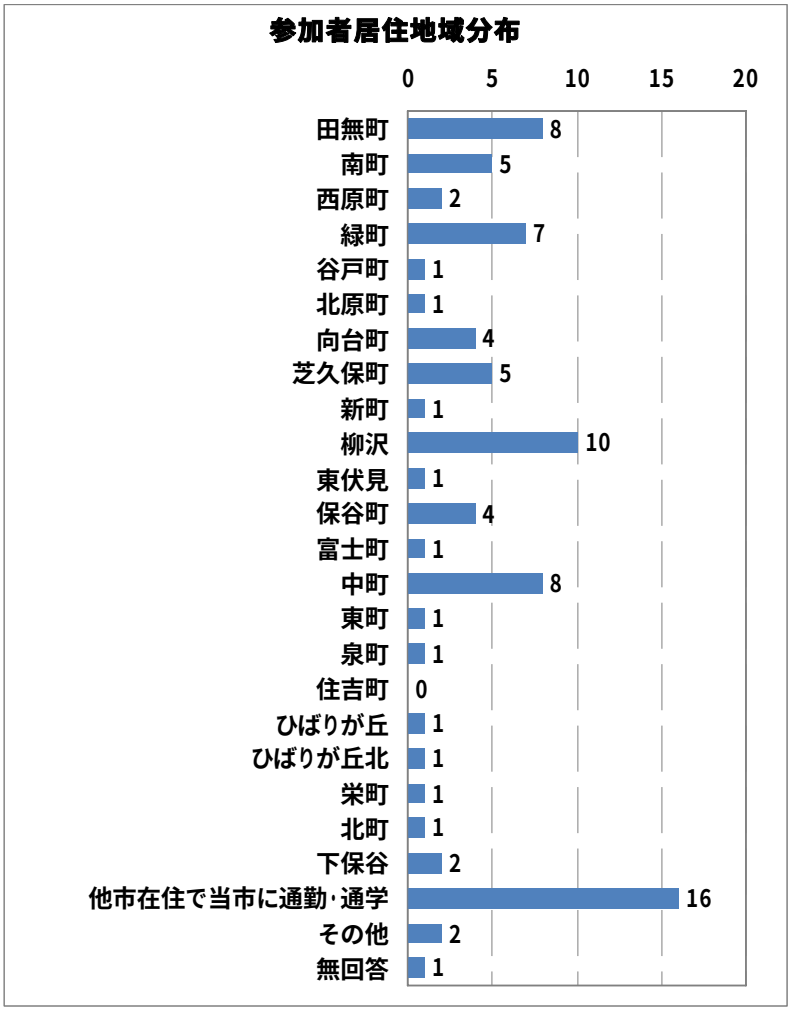
(2) 参加者年齢分布

参加者年齢分布		
年代	人数	%
20 歳代	3	3.5%
30 歳代	7	8.2%
40 歳代	22	25.9%
50 歳代	19	22.4%
60 歳代	18	21.2%
70 歳代	9	10.6%
80 歳以上	4	4.7%
無回答	3	3.5%
合計	85	100.0%



(3) 参加者居住地域分布

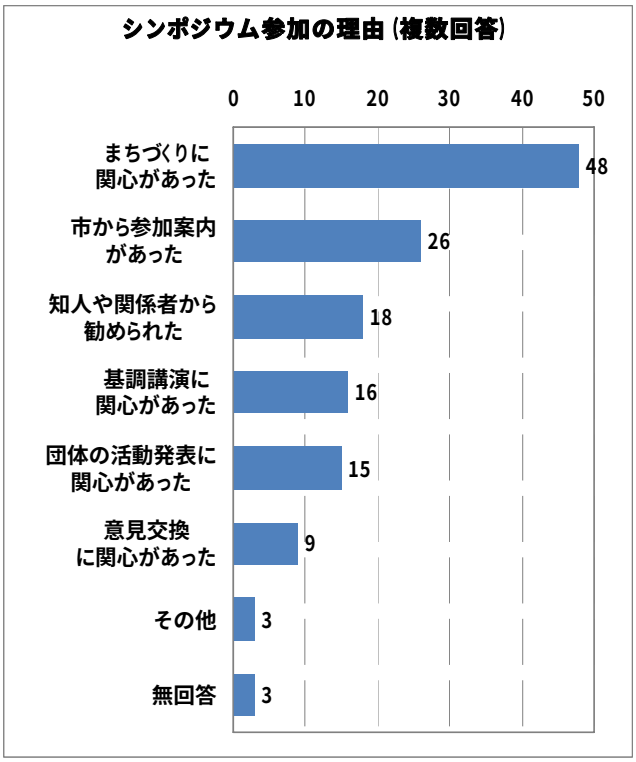
参加者居住地域分布		
地域	人数	%
田無町	8	9.4%
南町	5	5.9%
西原町	2	2.4%
緑町	7	8.2%
谷戸町	1	1.2%
北原町	1	1.2%
向台町	4	4.7%
芝久保町	5	5.9%
新町	1	1.2%
柳沢	10	11.8%
東伏見	1	1.2%
保谷町	4	4.7%
富士町	1	1.2%
中町	8	9.4%
東町	1	1.2%
泉町	1	1.2%
住吉町	0	0.0%
ひばりが丘	1	1.2%
ひばりが丘北	1	1.2%
栄町	1	1.2%
北町	1	1.2%
下保谷	2	2.4%
他市在住で当市に通勤･通学	16	18.8%
その他	2	2.4%
無回答	1	1.2%
合計	85	100.0%



2：シンポジウム参加の理由（複数回答）

・シンポジウム参加の理由は、回答が多い順に「まちづくりに関心があった」34.8%（48 名）、「市から参加案内があった」18.8%（26 名）、「知人や関係者から勧められた」13.0%（18 名）となった。

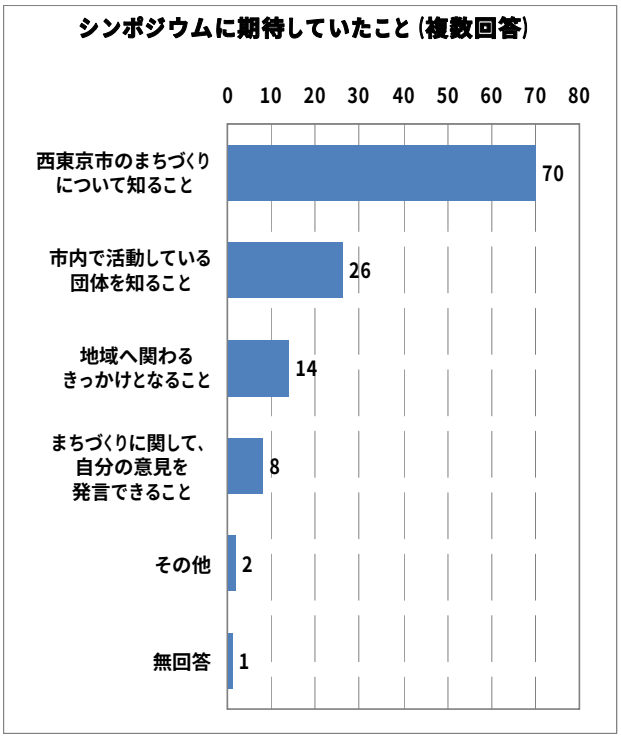
シンポジウム参加の理由		
評価	人数	%
まちづくりに関心があった	48	34.8%
市から参加案内があった	26	18.8%
知人や関係者から勧められた	18	13.0%
基調講演に関心があった	16	11.6%
団体の活動発表に関心があった	15	10.9%
意見交換に関心があった	9	6.5%
その他	3	2.2%
無回答	3	2.2%
合計	138	100.0%



3：シンポジウムに期待していたこと（複数回答）

・シンポジウムに期待していたことは、「西東京市のまちづくりについて知ること」57.9%（70 名）が半分以上を占めた。

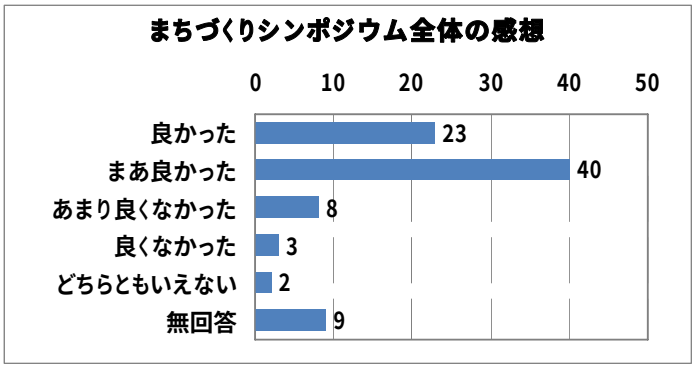
シンポジウムに期待していたこと		
評価	人数	%
西東京市のまちづくりについて知ること	70	57.9%
市内で活動している団体を知ること	26	21.5%
地域へ関わるきっかけとなること	14	11.6%
まちづくりに関して、自分の意見を発言できること	8	6.6%
その他	2	1.7%
無回答	1	0.8%
合計	121	100.0%



4：「まちづくりシンポジウム」に参加して全体の感想

・まちづくりシンポジウム全体の感想は「良かった」、「まあ良かった」を合わせて、全体の74.2%（63名）を占めた。

まちづくりシンポジウム全体の感想		
評価	人数	%
良かった	23	27.1%
まあ良かった	40	47.1%
あまり良くなかった	8	9.4%
良くなかった	3	3.5%
どちらともいえない	2	2.4%
無回答	9	10.6%
合計	85	100.0%



＜自由回答のうち、まちづくりへの提案があったもの＞

属性	意見
20 歳代・男性	市と市民の情報の共有
30 歳代・男性	駅前市街地･商店街の活性化、西武鉄道との連携。 一部の人だけでない市民参加の方法。年齢別人口のボリュームゾーンである 30～39 歳の市民参加が少ないような気がする。
30 歳代・男性	コミュニティスペース（例えば公園に自由に活動発表できるスペース）を用意し、個々が持つ得意とするものを交流できる仕組みをつくる。新たなコミュニティの確立（の場）が必要であり、全ての世代の人が交流することは心を豊かする上で重要で、西東京市にはそれができる可能性にあふれている。
30 歳代・男性	コミュニティの重要性を改めて考えるきっかけとなった。市内の団体活動を知ることができて良かった。今後、他の機会を設けて欲しい。
30 歳代・男性	総合計画策定に多くの市民でまちづくりにかかわる重要性を感じた。行政への無関心層を関心層に変える運動が必要。超高齢化が進む中で、我々世代が何ができ、しなければならないのか協働を進めながら考えていきたい。
40 歳代・男性	西東京グッドニュースの発表から、具体的でエネルギッシュな活動の様子が伝わり、協働に対する違式の高い人がいることも分かった。市の方は、協働に対してのスタンス、考え方をもっと市民に PR すべきである。まちづくりには市民の意見をできる限り取り入れられたら良いと思う。（まちを大切に思う気持ちは、そこで暮らす人が一番だと改めて感じた）
40 歳代・男性	右肩あがりの時代から、生産労働人口が確実に減少していく中で、これまでの「資産」を活用して、どう市政を運営していくかが問われている。縮小社会の中での計画、「成長」」を前提にすべきでない、オリジナルある視点で一歩先ゆく計画としてほしい
40 歳代・男性	もっと子ども、子育ての視点を取り入れるため、若いメンバーを検討に加えてもらいたい
40 歳代・男性	こそだて世代の人口が増えている地域です。子ども達が大人になってもこの街でくらしたい。自分の手でこの街をつくりたいと思える街にしたい。 「西東京市でこんな街に」という具体的ビジョンがまだない。しかし、それぞれの分野で魅力的なビジョンを持ち活動している個人、団体が多くいると思った。今後の課題は、それらの活動をつなぎコーディネイトしていくことにあるかもしれない。
50 歳代・男性	超高齢化社会に応えうる公設の高齢者施設（例えば福祉会館など）に改善して欲しい。趣味やサークルの場としてだけでなく、高齢者がボランティアや市民活動を進める拠点として変えていくような、新たな機能･役割を付加することを考えるべき。
60 歳代・男性	学校関係（地域や保護者）やスポーツ関係の委員も入れて欲しい 公園（都･市･空き地）の配置も検討すべき（東大農場・住吉地区の都営住

	宅跡地等）
60 歳代・男性	シンポジウムの開催も、市民との協働でやらせてもらう方が良い。
60 歳代・男性	・会場から、具体的に連続立体などの提案がでて、こうした夢のある話を出して欲しい。 ・市民の発表で、「市民力の歴史がある」と聞いてうれしくなった、これから市民との「協働」を進めていきたい。
70 歳代・男性	福祉の課題は、介護保険の崩壊を防ぐことだと思う。超高齢化で行政だけの対応は限界があり、元気なシルバー層を介護ボランティアの参加させ活用していくこと、現状の介護保険で成り立たないというシグナルを発する必要があるのでは。
70 歳代・男性	・市民の意見を吸い上げるには、計画策定の段階から意見をつのり、その方法も、具体的な施策についても充分な時間をかけディスカッションの場をつくるべき。 ・コミュニティとは、どの程度の規模で考えるのか？（例えば、小学校校区単位とか公民館単位とか）また、そのコミュニティをオーガナイズする人は誰なのか？
70 歳代・男性	ハード面、特に道路、公園、インフラのまちづくりがどうなるのか、市民がどう協働できるかわからなかった。
80 歳代・男性	各団体の発表は、意欲的な気持ちがあふれていた。テーマとなっている協働については、期待に反して行政の「たてわり」の域から出ていない。市民参加パブリックコメントは形式的になっていて、市民の関心度も理解度も低く、私も反省しています。
80 歳代・男性	「豊かなまちづくり」をつくる技として、都市計画、面整備が必要です。その鍵として、毎日の市民活動の癌となるものを未然に改良していくことが大切。例えば、西武線の連続立体交差事業に取り組むことが進められる。
20 歳代・女性	日々の公共公益施設の利用やボランティア活動の参加に加えて、今回のグッドニュースの話を聞いて自治意識の高さを感じた。しかしこのことを実感している市民は少ないのでは、より多くの人に知ってもらえるような広報活動に工夫をこらすと良いと思いました。媒体はインターネットが良い、市全体の情報系スマホアプリの製作も１つの手段では。
30 歳代・女性	・特に子どもに対することに対して真剣に考えて欲しい。子どもを大切にしないまちに未来はない ・市民が必要、市が必要と思っていても、議会で不採用になる意味がわからない。（議会は市民の代表なのに）
40 歳代・女性	総合計画策定における市民参加の位置づけに興味を持って参加した。
40 歳代・女性	西武線の連続立体化を是非実施して欲しい。
50 歳代・女性	市民参加の手法については、従来の手法の他に、新しい手法を工夫して、多くの市民参加によって、市民一人一人が計画づくりに参加していけるような意識の広がりが今後大切だと思う。

60 歳代・女性	行政との協働とともに、市民間、集団間の協働をどう形成していくかが大切という意見に同感した。
60 歳代・女性	市民が上等という声があったが、これを大いに宣伝してもらい市民をいい気持ちにして下さい。そして市の職員さんも「お金がない」と言っていますが、市民のボランティアと同様にもっと働き、協働して欲しい（いくらでも協力したいと思う市民は多い）
60 歳代・女性	・街の緑が減り、屋敷林も減っていき、緑を増やす前に今生きている木を何十年、何百年守って欲しい。 ・会場に来る途中、人通りの多い交差点に 2 カ所水の溜まっているところがあり、早めの対策をお願いしたい。東村山市の駅前の例をみて、田無駅も広場の下に駐輪場を設けてきれいにしたらどうか（毎日人を立たせて人件費をかけて雑然としているより良い）
60 歳代・女性	生活エリアが豊かになるには、生活者自身が市民として、人のつながりの中で生きているという認識を持って生活することが大切。個人、一戸のみでは生活できない、自立した幸せな市民として何ができるか何をしたら良いかについて、意識付けする（市から）働きかけが求められている。
70 歳代・女性	まちづくりに開発や箱物は要らない。環境を大切にしてほしい。来るべき大震災に備えて、生き残れるまちを、全体的な視点でつくって欲しい。 市の全体像が見えない。若い人達やもっと市民活動の力が生かせるのでは。
不明	西東京市の素晴らしい人材をつなぐ役目として、行政の役割が期待されるが、まだ、職員の人が慣れていないように見える。行政と市民が 1 つのテーブルで話すことから始めて見ては良いのでは。

≪西東京市まちづくりシンポジウム開催の様子≫

平成 24 年６月９日（土）、西東京市民会館において新たな（第２次）総合計画の策定過程における市民参加の一環として「まちづくりシンポジウム」を開催し、190 名の方にご参加いただきました。

第一部では、総合計画策定審議会会長の和田清美氏（首都大学東京都市教養学部都市政策コース教授）の基調講演、第二部では「西東京グッドニュース」として市内で活動する団体から海老澤達也氏（西東京青年会議所理事長）、望月利將氏（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会事務局長）、池田干城氏（西原自然公園を育成する会会長）、渡辺美恵氏（特定非営利活動法人 生活企画ジェフリー 理事長）から自身の活動を通じて感じていることを発表いただきました。第二部後段からは「まちづくりゆめトーク」として、審議会から小西副会長（武蔵野大学文学部教授）、坂口副会長（市民委員）が加わり「西東京市の将来像」をテーマとしてトークを展開し、その後会場との意見交換を行いました。

＜和田清美氏による基調講演の概要＞

21 世紀に求められる政策とは何か～市民参加と協働の重要性～

◆都市成熟化時代の到来と発想の転換

高度経済成長期を経て都市型生活様式に変わり、高齢化・人口減少社会へと都市成熟型の時代に向けて、我々は生きている。それは衰退化の面も持っており、それを回避しながら成熟化した社会にしていくためには、政策的な対応が必要となってくる。どういう社会を、暮らしを、人生設計を長期的ビジョンにたって構想し目標に向かって手立てが可能であるか、まさにビジョンを設定しそれを実現していくための政策が求められている。私たち市民がこの地域で生活していく理想をどう描くか。個々の計画や政策はその表れであり、行政だけが一方的に作るものではなく、むしろ皆さんそれぞれ個々の考えが政策あるいは計画に体系化されていることが正しい捉え方となる。私たち市民それぞれが責任を持って政策を形成するということが重要である。

◆政策形成と市民参加、協働

政策が私たちの今後の生活や社会の未来図だと考えると、政策は地域が抱える公共的な問題の解決を目指して目標を設定し、その目標を達成するための手段を明らかにし、計画にするということになる。それは私たちの生活の質を高めていく手段であるということから、総合計画策定の際には、市民参加と協働により市民の意向を反映したものとして取組むことが重要である。

◆市民参加、協働とコミュニティ

参加と協働という問題とコミュニティの問題は切り離せない。コミュニティ政策は地域社会の構築であり、それにどう住民参加をすすめていくか。東日本大震災以降、地域の絆であるとか社会関係の重要性が指摘されている。地域には様々な団体があり、そうした団体をどう協働させ、市民間、団体間の協働とそれから行政と共にパートナーシップを組みながら、政策等を介し、それは単に政策形成の立案だけでなく、実施段階も含めた市民参加や市民協働がコミュニティの中心的な課題である。

◆参加と協働による計画づくり

総合計画の策定に際しては、市民参加と協働の成果の上に立ち、どのような未来図、目標を設定し、どのような豊かな生活をこの西東京市でできるか、今後市民の皆さんと共にすすめていきたいことから、ワークショップをはじめとした取組みに是非ご参加くださるようお願いしたい。

＜第二部＞

●西東京グッドニュース

海老澤 達也　氏

「日本の未来のために」

望月 利將　氏

「安心して暮らせるまち」

池田 干城　氏

「シチズンシップ」

渡辺 美恵　氏

「市民力」

●まちづくりゆめトーク

右から和田会長、小西副会長、坂口副会長

－詳細は「まちづくりシンポジウム記録」をご覧下さい－